

## 周産期中乳用牛の消化管ホルモン動態

畜産研究センター

小池正充、家木一

周産期中乳用牛の消化管ホルモン（GLP-1、グレリン、IGF-1）分泌動態と養分摂取状況との関係を中心に検討した。調査は乳牛16頭を供試し、分娩予定3週前から分娩後9週までの間、高TDN飼料給与区（H区）と低TDN飼料給与区（L区）に均等に配置し行った。各ホルモン濃度は給餌の30分前と2時間後に採血し、時間分解蛍光免疫測定法で測定した。その結果、GLP-1は分娩前から減少して分娩前後で基底値をとり両区とも差が見られず、その後はH区がL区に比べて急激に上昇した。グレリンは採食後に比べ採食前で高い値を示し、分娩時には両処理区ともに緩やかに減少した。また期間を通してH区がL区よりも低い傾向にあった。IGF-1は分娩前に急激に減少し、期間を通じてH区が高値で推移した。このことより、消化管ホルモン分泌は、分娩後ではTDNの摂取状況に影響されていたが、分娩前から分娩時にかけて一部栄養状態を反映しない傾向が見られた。